

⑦ 鷲頭自見の墓



生年不詳。大内氏より分かれた鷲頭氏の末裔と言われており、先祖は弘治3（1557）年の大内義長の没落

後、滝部の地に入り、土豪となったと言われている。阿川毛利4代当主就泰の命により、滝部の開墾に尽力し20余町の開墾に成功する。また、現在の職業安定所に相当する「奉公市」を創始した。これにより農繁期に漁村の余剰労働力が農村に供給されることとなった。「奉公市」は戦後の頃まで行われ、滝部は大いに賑わった。自見は宝永3（1706）年に60余歳で亡くなったとされている。墓は滝部の末森山に建てられ、地元の人々からは「市守様」と称された。また、大正8（1919）年発行の絵葉書には「奉公市開基の碑」して紹介されている。大正15（1926）年、滝部上市に自見を祀った市守神社が建立され、信仰は同所へと移ることとなった。しかし墓碑は今も滝部上市・下市両地区の人々によって管理されている。